

編集後記

今年の夏の暑さは今まで経験したことがないものでした。7月の平均気温が東日本では1946年の統計開始以来最高となり、西日本でも1994年に次ぐ第2位とのことです。9月となり秋の気配が感じられるようになりましたが、8月下旬まで40度以上の観測が報告されるような状況でした。熱中症により緊急搬送された患者の方も多く、学校で学童が死亡する事件もありました。学校のような見守る先生がいる公的な場で、どうして子ども達を守れなかったのか、よく検証しなくてはなりません。今年は台風の発生も例年になくハイペースです。地球温暖化などによる異常気象が指摘されていますが、「進化医学, evolutionary medicine」という新たな研究分野では、病気を個人の内的要因(人間の遺伝子は20万年余りほとんど変わっていない)ではなく個人を取り巻く「環境」とのかかわりにおいて捉えています。環境の影響を最も敏感に受けるのは子ども達です。

今月の特集は「溶連菌感染症を見直す」です。溶血性レンサ球菌感染症は頻度も高く、また年間を通じて患者がみられることから、小児科の日常診療においてきわめてありふれた疾患といえます。溶連菌咽頭炎などは抗菌薬により比較的経過良く治癒しますが、溶連菌感染後急性糸球体腎炎、リウマチ熱、溶連菌感染後反応性関節炎、そしてIgA血管炎など、溶連菌感染に続発する疾患のコントロールにつ

いては課題が残されています。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加も危惧されており、解決した疾患とはいえません。本特集では、溶連菌感染症について細菌の特徴や疫学から多彩な関連疾患に至るまで、広範囲にわかりやすく記述されています。猩紅熱などはだいぶ前から診ることがなくなっていますが、溶連菌感染症の報告数は増えていることから、本特集が溶連菌感染症について改めて理解を深める一助になることを願っています。

綜説欄には最近の遺伝子解析技術の進歩をもとに腎性低尿酸血症、Fanconi症候群、Dent病などの遺伝性尿細管機能異常症について、最新の情報がまとめられています。頻度は高くない疾患ですが、これらの知見は尿細管における制御機構の解明などにつながり、治療法の開発など幅広い展開が期待できます。

診療欄の「CAR-T細胞療法—遺伝子改変T細胞を用いた新しいがん治療」も最新の動きが興味深い論文です。

症例欄には先天性エプーリス、Microgeodic disease、重症閉塞性睡眠時無呼吸、目で見える小児科欄ではSAPHO症候群など貴重な症例が報告されています。

皆様の情報を整理するのによい企画が揃っていますので、ご活用ください。

(河野 陽一)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第59巻第11号 10月号

2018年10月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金

定価（本体41,000円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。